

## ロゴセラピスト、肺ガンになる

梶川哲司

私はロゴゼミ第1回目（2001年4月）からの受講生で、2012年夏に自己認識講座を終えました。ここで近況を報告します。高校教員を定年退職した後、講師をしながらのんびり暮らしておりましたが、2016年秋、65歳で突然ガン宣告を受けました。喫煙歴はなく自覚症状も皆無ですが、鎖骨の陰で長く潜んでいた5cmもの肺ガンがCT検査で見つかったのです。幸い手術は出来ましたが他の箇所にも病が見つかり、この4年間で6回もの手術を受け、入院日数は100日を超えました。

フランクは「意識して死に赴いていくというのは、運命の贈りものにちがいない」と言います。確かに人間には事件の悪や不幸を是認することなしにそれらを自分の運命の一部として受け入れる力があります。私も彼の言葉に順って宣告を受け入れ、この病気は私に課せられている、私はここから何を産み出せるのか……と思い、自由に動けるうちに何か社会に役立つものを残そうと考えました。私は地域の開発計画を批判して自然環境の保全運動に関わってきました。経済成長のための自然破壊という愚を繰り返させないために、これまでの自分の主張と活動、和歌山の魅力や人間の本質についての考察を活字にし、皆さんに考えてもらいたいと思い、『和歌山の公害—海岸線の埋立て開発をめぐる』と『夏目漱石の和歌山—来和事情をめぐる』という2冊の小著を自費出版し、県内の図書館や高校・大学へ寄贈しました。

しかし2020年秋にはガンの再発と骨への転移が判明し、もはや手術のできないガン患者となり、はてさて、これからどのように生きる（つまり死ぬ）べきかを考えざるを得なくなりました。「何かを為す（to do）前に、何かである（to be）ということを考えよ」という言葉もありますが（樋野興夫）、フランクに即して言えば体験価値や態度価値への価値視野の拡大ということです。これを吾が事としてこれから実践していくつもりです。



（和歌山県岩出市在住 無職 A級ロゴセラピスト）